

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 小林美穂

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成 27 年 8 月 17 日～25 日までカンボジアを訪問したので、報告致します。滞在中はトレンアップ村にて、ホームステイをしながら村の学校に日本語英語ボランティアをしていました。以前から発展途上国の教育状況について興味があり、実際に現地に行き、自分の目で直接見て実感してみたいと思うようになり、行くことにしました。

2. 活動内容

村の学校では月曜日から土曜日まで同じ予定でした。

- 7 : 30～朝のミーティング
- 8 : 00～9 : 15 日本語クラスの授業
- 9 : 45～11 : 00 英語クラスの授業
- 11 : 00～13 : 30 昼食&休憩
- 13 : 30～14 : 45 日本語クラスの授業
- 15 : 15～16 : 30 英語クラスの授業
- 16 : 30～夕方のミーティング

授業内容は単語とその単語を使った例文を教えるというものでした。私は 3 年生と 4 年生のクラスを担当しました。1 コマの授業が 75 分と長いのもあり、4 年生は授業を聴いてくれるけれども、3 年生は集中力が切れ、ふざけだし遊ぶ子がいて大変でした。



生徒達は先生の入替わりが多い中、私の名前を覚えてくれて、名前を呼ばれるのはとても嬉しかったです。休み時間は、大縄をしたり、折り紙をしたりして遊びました。私の髪の毛を編み込んでかわいい髪形にしてくれたりしました。

ラスト授業の時、手紙や折り紙でハートをおったのをたくさんもらい、とても嬉しかったです。せっかく仲良くなって、慣れてきた頃にお別れになり、本当に寂しい気持ちになりました。

3. 村の学校外の活動

村でのホームステイは7人の参加者と共同生活でした。洗濯は村の井戸水で手洗い、風呂も井戸水をかけ流し洗う形、扇風機も携帯電話も使えないとてもアナログな生活でした。



お店は地元の売店が少しあるくらいで、スーパーマーケットなど一つもない村でした。参加者の人と村の散策をしました。村の人は、早寝早起きの生活が基本でした。私達は毎朝、朝日を見るため、5時に起床したり、夕方は夕日を見に行ったりしました。いつも一緒に生活をしていたので、兄弟のようにとても仲良くなりました。

オプションツアーとして学校が休みの日にアンコールワット遺跡やアンコールトム遺跡に行きました。彫刻のレリーフがすごく細かくて、きれいで感動しました。



4. おわりに

カンボジアでの事は私の想像以上にとっても刺激をうけました。村の子供達は物が豊富な日本とは違って、服やカバンはよれよれになってまで着ていても、とても素直で、いつも笑顔を絶やさず、ニコニコしていて逆に私が元気をたくさんもらいました。

日本に帰国して、前よりも物を大切にする意識がつかしました。村の子供達は裕福ではなくても、温かい純粋な心を持ち、その子達からお金には換えられない大切なことがあることを教えられました。カンボジアで、素敵な人にたくさん出会い、日本には生まれなかった価値観や考えが生まれ、本当に行って良かったです。この経験で学んだことをいかし、将来につなげたいと思いました。

